

現代教員の類型

— 教員文化検討の手がかりとして —

石戸谷 哲夫 (東京教育大学)
門 脇 厚司 (筑波大学)
永 井 聖二 (筑波大学大学院)

(1)

学校教育がかかえている諸問題がとりあげられるとき、その解決についての論議はいつも教員その人の資質の問題へと回帰してきた。教育に当るのは結局、制度や法規ではなく、教員なのである。ところが、おおかたの識者はそのように認識しているにしても、ではどうやって教員の資質の向上をはかるかということになると、議論は主として教員養成機関での就職前教育のあり方に集中してきた。

われわれは、たとえ就職前教育によってつくられた資質が育成されたとしても、それがそのまま教育の現場で維持され発揮されるのだという考え方に単純には同調できない。教員の職場には、かつてウォーラーが指摘した、「心のなかに徐々にくいこんでひと口ひと口占領しその創造的な力を食いつくす」害虫による職業的風土病とよんだものが潜人であるかもしれない。あるいは、他の職業とくに専門職について云われているように、教職も独自の雰囲気や価値観をもっていて、教員としての資質はそのなかで磨耗されたり、形成されたりしているであろう。

職場での教員の社会化については、従来その影響の重さが指摘されながらも、その過程についての実証的研究の成果は意外に乏しい。われわれは、教員の職業的社会化の過程をあきらかにすることを究極には意図し、その第一段階として現代のわが国の教員文化の特徴をとり出そうとしたのであるが、本報告は、その手がかりとして試みた、教員類型に関するものである。

(2)

以上のような意図とねらいから企画された本調査の実施要領は次の通りである。

- ① 調査対象者：東京23区内の区立小学校に51年9月現在で在職する教員
- ② 抽出方法およびサンプル数：無作為抽出法（二段階抽出）、抽出率 $\frac{1}{10}$ 、サンプル数801
- ③ 調査期間：51年11月1日～52年2月5日
- ④ 調査方法：面接留置法
- ⑤ 回収有効票および回収率：613票、76.5%

調査の分析結果を報告する前に、教員の類型設定のために用いた調査設計および分析手法について説明しておきたい。

まず調査設計であるが、ここで用いたのは1972年以降門脇らが開発、改良を加えてきたP-S法(Preference in Situation Method, 別名AIUEOモデル)である。この手法は、簡単にいえば人々の行動を基本的に規定する価値観の本来的特性と数理化理論や皿類なる多変量解析法の特徴とを互いに補強しあうかたうで組み合わせ一つの価値観抽出法とすることを目的に開発した手法である。いま少し説明を加えれば、人々の価値観とは、人々の行動を基本的にしきも明確に律するなにものかでありながら、当人自身それがどのような性格のものであるか意識しておらず、従ってそれを言語化し説明することが不能なものとして存在するものであり、理性的・論理的であるより情動的・非論理的な性格をよりつよく帯びている。とみてよい。とすれば、価値観を操作的にしかもできるだけの確にとらえようとするなう、具体的な状況でなされる人々の選好行動を手がかりとするのがあつとも適切であらう。

う。一方数量化理論オ皿類は定性的データの
 単一反応をもとに、反応を貫ぬく筋を抽出し、
 これをもとにしたパターン分類のために開発さ
 れた多変量解法である。こうして考案された
 のがP-S法である。

教員の価値観をもとにP-S法によるいくつ
 かの教員類型を析出するために用意された設
 問は表2に掲げた30アイテム60カテゴリーか
 らなっている*。この設問への反応をもとに数
 量化理論オ皿類をほどこし析出され、パタン
 分類に用いるために有効と判定された軸(ス
 ケール)は2本であった(表1参照。なお固
 有値:オ1軸0.090、オ2軸0.066,相
 関比:オ1軸0.301、オ2軸0.257)。表2
 にもとづき、われわれはこれら2本の軸の性
 格をそれぞれ協調スケール(オ1軸)、自負
 スケール(オ2軸)と判定し命名した。

(注)表2は、教職の判別からここに掲載してない。当日配布の
 決定である。

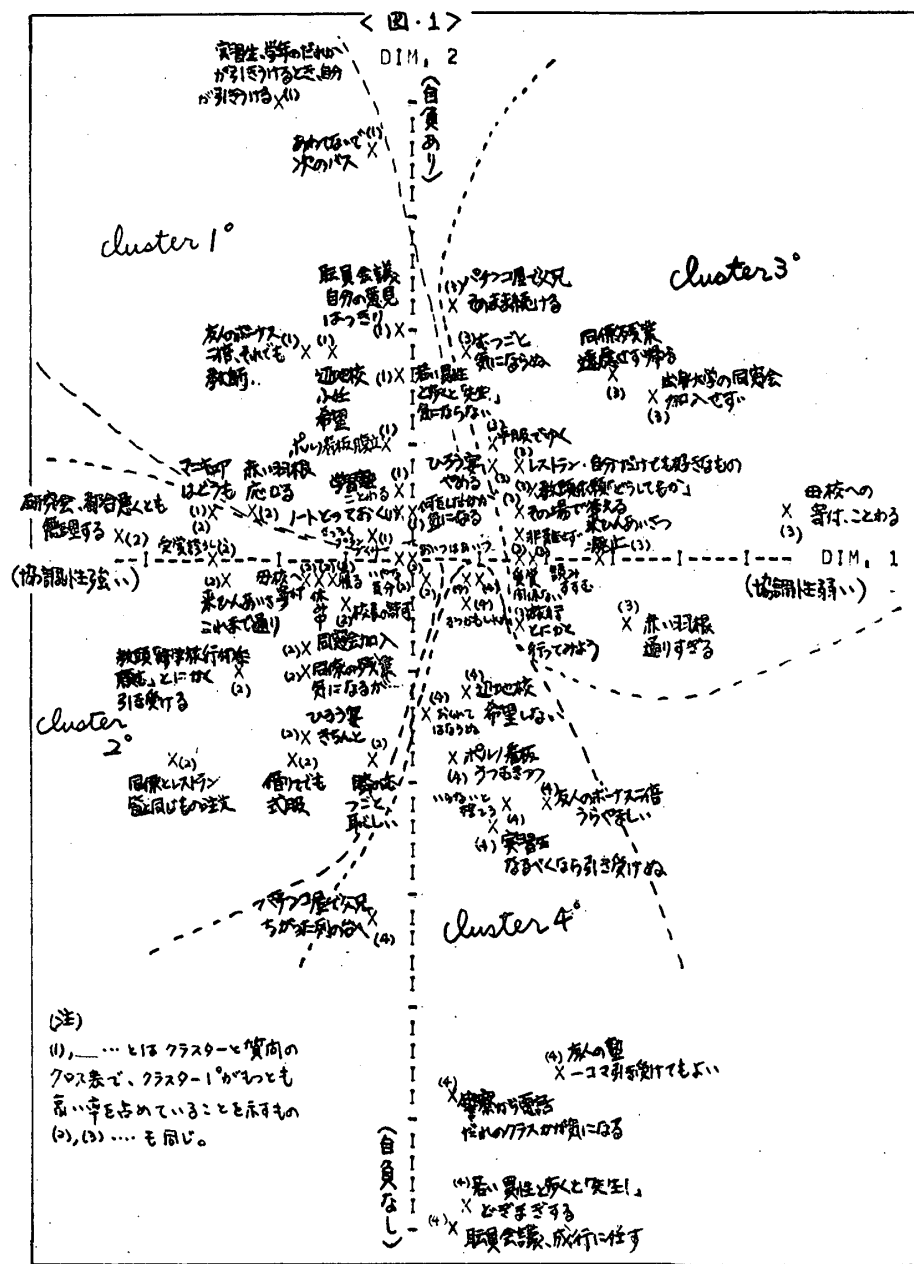
<表1>

オ1軸			オ2軸		
順	アイテム・カテゴリー	相対値	順	アイテム・カテゴリー	相対値
1	(14-1) 田校へ寄付しない	2.56	1	(18-1) 実習生引き受ける	1.98
2	(26-2) 同窓会加入せず	1.68	2	(11-2) あわてやいでの決のバス	1.81
3	(17-2) 赤い羽根返す	1.44	3	(19-2) パチンコ屋で兄・弟の賭	1.15
4	(2-1) 同僚残業・遠慮せず	1.40	4	(6-1) 教員会議・意見はあきら	0.96
5	(21-2) 米ひんあいつで廃止	1.29	5	(24-1) 近地校の生徒希望	0.95
6	(11-1) 塾・コマ持つ	0.99	6	(25-2) ポーラス倍・そのれ教師	0.93
7	(25-1) ポーラス倍うらやま	0.85	7	(18-1) 隣の毛つこを気にする	0.89
8	(12-1) 教頭へどういもか	0.80	8	(5-2) 異性との交際を希望	0.82
9	(12-2) 本の読み・読書の進	0.76	9	(2-1) 同僚残業・遠慮せず	0.77
10	(22-2) ストラン・自分だけ別	0.72	10	(26-2) 同窓会加入せず	0.74
田各			略		
21	(14-2) 田校へ寄付する	-0.80	21	(10-1) 借りたものを私服	-0.77
22	(10-1) 借りたものを私服	-0.87	22	(18-2) ポールの看板・コマを持つ	-0.78
23	(18-1) 実習生引き受ける	-0.98	23	(25-1) ポーラス倍・そのれ教師	-1.03
24	(17-1) 赤い羽根返す	-1.10	24	(19-1) 借る111家白捨てる	-1.05
25	(13-2) 教頭依頼・ひきか	-1.23	25	(18-2) 実習生引き受けぬ	-1.14
26	(21-1) 米ひんあいつで廃止	-1.28	26	(19-1) パチンコ屋で兄・弟の賭	-1.50
27	(15-2) 学区の先生残業・誇らし	-1.38	27	(11-1) 塾・コマ持つ	-2.24
28	(23-2) マニキアはどうか	-1.44	28	(16-1) 友達のクラスがけがに	-2.34
29	(22-1) ストラン・同じの注文	-1.69	29	(5-1) 異性との交際を希望	-2.75
30	(7-1) 研究会・整理して	-2.04	30	(6-2) 教員会議・成行に任	-2.89

ついで、析出されたスケールによる各サンプ
 ルの数量化をもとに、より厳密な分類を行な
 うためクラスター分析法をほどこした。結果、
 われわれは4つの類型(クラスター)を妥当
 と考えたが、数量化理論オ皿類とクラスター
 との関連図は図1になる。各クラスターの性
 格は表2により判定することになるが、図1
 からみて、基本的には数量化理論オ皿類によ
 って抽出された2本の軸(協調スケール、自
 負スケール)の直交によって仕分けられる4
 つの象限とほぼ対応するとみてよい。

ところで、こうした手順と分析によって析
 出された教員の4類型とはいかなるタイプで
 あったか。以下がそれぞれの典型像である。
 (表2参照)

- ①自信型(エウエウ教師): 声が大きく、話
 し方もゆっくりで自信にあふれている。教職
 者であることが好きで、教師であることに誇
 りをもち、教師たるものの自覚も人一倍よく、
 他者にもそれを求める。勉強熱心。
- ②保身型(ハイハイ教師): 小心で事なかれ
 本位。教師たる体面を気にするが自負はない。
 自分の意見にこだわることはなく自己表出も
 しない。不満でも指示におりにやっていれ
 ば無難と考えている。教材研究や指導にも積極
 的にとりくむことはない。
- ③奔放型(ノビノビ教師): やる気満々で自
 分のやることに自信もある。自己主張が強い
 が、それを支えるだけの努力もおこたらない。
 よりよい教師であり、よりよい教育をすること
 をオーに考えており、そのため体面やしき
 たりにはこだわらない。
- ④割切型(シコシコ教師): 教師である自覚
 はさほどなく自負もない。教職を一つの無難
 な職業と考えており、従って学校は“教育の
 場”であるよりは職場。子どもや教育のこと
 より自分のことが決。同僚との協調心はさ
 ほどなく、組合にも無関心。権用は拒否。



て男が多いのは自信型であり、女が多いのは割切型となっている。(表3参照)一方年令別の構成では、自信型は40代以上に多く分布し、保身型は40代後半に多いものの平均して分布している。奔放型は20代後半～40代前半に多く、割切型は20代～30代前半の若い層に多い(表4)。これをまとめると、自信型は30代後半以上の男、保身型は同じく40代後半以降の男女、奔放型は20代後半から40代前半へかけての比較的若い世代の男女、そして割切型は30代前半までの若い女というプロフィールが得られる。

また、クラスター分析にすすまえの数量化理論Ⅲ類によるサンプルスコアの平均値の推移によっても、同様の傾向は明らかになる(図2)。これを男女別にさらに詳しく見ると、男では20代前半が従来の学校運営や同僚との協調に最も否定的であり、年代が進むにつれてこれを願望する傾向が強まる。殊に顕著な断層は35才にある(図3)。一方女では、年令を重ねるにつれて同僚との協調や従来の学校運営に対し肯定的態度をとる傾向が強まる点は男の場合と同じだが、これに自負なし→自負ありへの動きが加わっている。つ

(3)

それでは、以上の手法によって析出された教員の4類型の各々は、どんな属性の教員によって構成されているのか。次に、これを見る。

まず男女別であるが、サンプル全体の男女比は男39%、女61%となっている。各類型の男女別構成比をみると、全体の男女比に比し

る(図2)。これを男女別にさらに詳しく見ると、男では20代前半が従来の学校運営や同僚との協調に最も否定的であり、年代が進むにつれてこれを願望する傾向が強まる。殊に顕著な断層は35才にある(図3)。一方女では、年令を重ねるにつれて同僚との協調や従来の学校運営に対し肯定的態度をとる傾向が強まる点は男の場合と同じだが、これに自負なし→自負ありへの動きが加わっている。つ

まり、自負スケールは女の場合にのみ有効なスケールである。この場合、顕著な断層は45才のところであり、男の場合より10年遅くなっている。さらに出身校別にサンプルスコアの平均値をプロットすると(図4)、同僚との協調を重んじ従来の学校運営に肯定的な度合が最も強いのが旧師範出身者であり、大卒の女はその反対の極に位置することがわかる。また、短大出身者は大卒の女とは質的に異なる層である。一般に、男より女が、年配者より若年者が、主流校出身者より廃系校出身者

が、それぞれ協調性が弱く、従来の学校の在り方に批判的だといふことができる。そして、これらの協調性が弱く従来の学校運営に否定的な層は、概して自負心に乏しく軋轢を恐れてはっさり意志表示しない者が多いということである。協調性が弱く自負心がかんなのは類型でいうと奔放型であるが、このタイプは20代後半から40代前半までの大卒者に多く、男女差はさほどない。

ところで、回答にみられるこうした差異が、現在の学校集団内の役割構造の不均衡や教員

<表・3>

	性別		
	男	女	
cluster 1 (自信型)	93 (53.8)	80 (46.2)	173 (100.0)
cluster 2 (保身型)	57 (37.7)	94 (62.3)	151 (100.0)
cluster 3 (奔放型)	52 (36.1)	92 (63.9)	144 (100.0)
cluster 4 (割切型)	36 (24.8)	109 (75.2)	145 (100.0)
	238 (38.8)	375 (61.2)	613 (100.0)

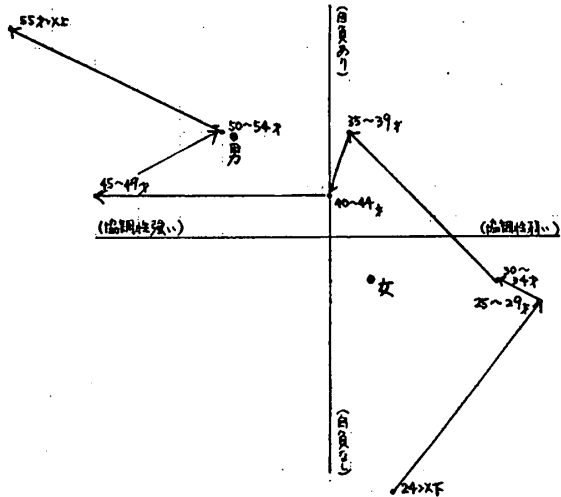
<表・4>

	年 令								
	24~25	26~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~	
cluster 1 (自信型)	10 (15.8)	17 (29.8)	21 (37.1)	12 (20.9)	23 (43.3)	57 (99.5)	25 (48.5)	14 (28.1)	173 (100.0)
cluster 2 (保身型)	13 (8.6)	31 (20.5)	12 (7.9)	10 (6.6)	14 (9.3)	48 (31.8)	16 (10.6)	7 (4.6)	151 (100.0)
cluster 3 (奔放型)	8 (5.6)	21 (28.5)	25 (37.4)	12 (8.3)	19 (33.2)	20 (39)	16 (11.1)	3 (2.1)	144 (100.0)
cluster 4 (割切型)	25 (17.2)	45 (31.0)	28 (23.3)	9 (6.2)	10 (6.9)	16 (11.0)	11 (7.6)	1 (0.7)	145 (100.0)
	56 (9.1)	134 (24.9)	86 (14.0)	43 (7.0)	66 (10.8)	135 (22.0)	68 (11.1)	25 (4.1)	613 (100.0)

<表・5>

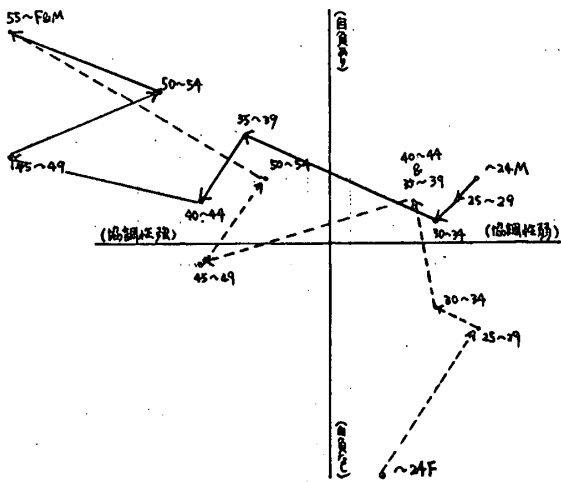
	免 状 取 得 校														
	短大	大学	旧師範	その他	大学	大学	大学	大学	旧師範	旧師範	大学	大学	大学	大学	
cluster 1 (自信型)	22 (12.7)	80 (46.2)	41 (23.7)	25 (14.5)	29 (16.8)	49 (28.3)	53 (30.6)	27 (15.6)	29 (16.8)	12 (6.9)	19 (11.0)	10 (5.8)	34 (19.7)	15 (8.7)	173 (100.0)
cluster 2 (保身型)	16 (10.6)	75 (49.7)	31 (20.5)	25 (16.6)	32 (22.5)	38 (25.3)	37 (24.5)	38 (25.2)	14 (9.3)	17 (11.3)	21 (13.9)	13 (8.6)	15 (9.9)	23 (15.2)	151 (100.0)
cluster 3 (奔放型)	11 (7.6)	94 (65.3)	21 (14.6)	17 (11.8)	32 (22.2)	58 (40.3)	30 (20.8)	64 (44.4)	14 (9.7)	7 (4.9)	10 (6.9)	22 (15.3)	18 (12.5)	40 (27.8)	144 (100.0)
cluster 4 (割切型)	16 (11.0)	97 (66.9)	17 (11.7)	15 (10.3)	29 (20.0)	60 (41.4)	25 (17.2)	72 (49.7)	7 (4.8)	10 (6.9)	6 (4.1)	23 (15.9)	15 (10.3)	45 (31.0)	145 (100.0)
	65 (10.6)	346 (56.4)	110 (17.9)	82 (13.4)	124 (20.2)	205 (33.4)	145 (23.7)	201 (32.8)	64 (10.4)	40 (6.5)	56 (9.1)	68 (11.1)	82 (13.4)	123 (20.1)	613 (100.0)

< 図・2 >



の各層に予想される地位系列 (status sequence) の差異に符合していることには充分注目する必要がある。たとえば表5の出身校別の4類型の分布状況でも、そのことははっきりする。左にあげるサンプルスコアの平均値のプロットでも同様である。現在の学校集団においても中心的な役割を担っており、かつ将来の管理職への登用が有望である者は、協調的であり、自負心も強いということである。そこで以下は、その他の設問に対する回答を見ることを通して、4類型を浮き彫りにする作業をフォローする。

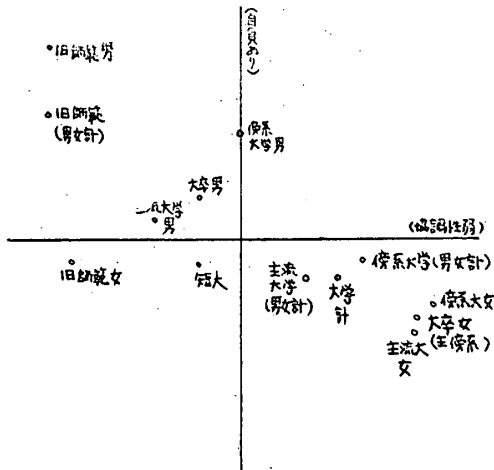
< 図・3 >



(4)

まず、主な役割限定者からの期待をどれほど気にしているかを訊ねて、意味ある他者というべきものを調べてみる(表6)。これによると校長や学年主任といった制度的な上位者の期待に応えようとする傾向が強いのは自信型と保身型であり、これを配慮しないのは奔放型となっている。割切型は、校長・同僚はもとより、組合指導者・生徒・学年主任・父兄など、いづれの役割限定者に対しても「期待されていると思わない」とする者が多い。すくなくとも他の3類型との比較からほそいえる。

< 図・4 >



また、表7は転職離職の意志を訊ねているが、教職を続けるだろうと自分の将来を予想する者の割合は、自信型・保身型・奔放型・割切型の順に高い。奔放型では他の職業への転職を予想する者が、割切型では家庭の仕事に専念しようとする者が、それぞれ他の類型に比してめだつといえようか。さらに表8は、教職生活を遂行するうえでの悩みを訊ねている。その他、若干の資料を当日配布する予定だが、今後の教員の問題を考へるとき、奔放型と割切型の動向はとりわけ注目される。

<表・6>

		期待されてい	期待されている	期待されている	計
		るとは思わない	と多少思っている	と多いが、負担が大きい	
校長から	自信型	13.9%	39.9	41.0	134.6
	保身型	19.2	39.7	35.8	
	奔放型	34.0	9.7	50.0	
	割切型	47.6	14.5	33.1	
同僚から	自信型	12.1	43.9	35.8	134.6
	保身型	21.9	31.1	40.4	
	奔放型	29.2	25.7	39.6	
	割切型	40.0	26.9	26.2	
組合指導者から	自信型	48.6	11.0	28.3	134.6
	保身型	58.9	9.3	24.5	
	奔放型	51.4	15.3	25.7	
	割切型	64.1	7.6	20.7	
生徒から	自信型	5.2	78.6	11.0	134.6
	保身型	5.3	80.1	9.9	
	奔放型	6.9	75.0	13.2	
	割切型	13.1	70.3	8.3	
学年主任から	自信型	12.7	31.8	32.4	134.6
	保身型	17.2	36.4	26.5	
	奔放型	19.4	22.2	38.2	
	割切型	35.2	29.0	23.4	
父兄から	自信型	4.6	73.4	16.8	134.6
	保身型	6.6	68.2	18.5	
	奔放型	5.6	64.6	26.5	
	割切型	15.2	57.9	22.1	
自分の妻から	自信型	7.5	45.7	26.0	134.6
	保身型	6.6	39.1	20.5	
	奔放型	6.9	34.0	21.5	
	割切型	13.8	29.7	14.5	
自分の両親から	自信型	5.2	39.9	26.6	134.6
	保身型	8.6	41.7	23.8	
	奔放型	9.7	35.4	34.0	
	割切型	17.9	37.9	25.5	

* 下記の合計は、上記にN.A.を加えて100%となる

<表・7>

	①転職する	②家庭の任事	③教師を続ける	④その他	N.A.	計
自信型	2 (1.2)	15 (8.7)	142 (82.1)	11 (6.4)	3 (1.7)	173 (100.0)
保身型	2 (1.3)	18 (11.9)	114 (75.5)	12 (7.9)	5 (3.3)	151 (100.0)
奔放型	13 (9.0)	21 (14.6)	94 (65.3)	16 (11.1)	—	144 (100.0)
割切型	9 (6.2)	42 (29.0)	73 (50.3)	20 (13.8)	1 (0.7)	145 (100.0)

②と答えた者の時期

	自信型	保身型	奔放型	割切型
結婚時	—	1	2	5
出産時	1	8	6	12
その他	12	9	13	23

<表・8>

		自信型	保身型	奔放型	割切型	計
		ある	ある	ある	ない	
個人の方ではどうにもならない 制度的な制約に直面した	自信型	16.8	35.3	36.4	10.4	1.2
	保身型	20.5	31.8	37.1	9.9	0.7
	奔放型	31.3	35.4	27.1	3.5	2.8
	割切型	20.0	40.7	31.0	6.9	1.4
採用に迫られて、子どもにやり たいことが思うようにできない	自信型	46.2	30.6	19.1	2.9	1.2
	保身型	51.7	30.5	15.9	2.0	—
	奔放型	63.2	24.3	10.4	2.1	—
	割切型	68.1	26.2	9.0	0.7	—
教えるが上級学校に進むほど 腐敗していつかおぼろげに	自信型	2.8	15.6	36.4	42.8	2.9
	保身型	7.9	19.2	33.8	34.4	4.6
	奔放型	2.8	16.7	18.1	56.9	5.6
	割切型	4.8	11.7	39.3	37.9	6.2
やと子どもたちをつかめたと思 うころには受け持ちが深まって がたくなる	自信型	6.9	13.9	35.8	39.3	4.0
	保身型	14.6	23.2	37.1	24.5	4.6
	奔放型	7.6	20.8	27.1	36.8	7.6
	割切型	6.2	19.3	27.6	39.3	7.6
自分の教育活動上の理想を実現 するために、やはり制約が多 い	自信型	15.0	38.7	38.2	5.8	2.3
	保身型	21.2	37.1	31.1	7.3	3.3
	奔放型	38.2	31.3	27.1	1.4	2.1
	割切型	25.5	40.0	27.6	4.8	2.1
職業望のふん圓が望むほど、 のびのびと思ができない	自信型	4.6	11.0	27.7	56.6	—
	保身型	9.9	17.9	29.1	42.4	—
	奔放型	11.1	16.0	27.1	45.8	0.7
	割切型	8.3	17.9	37.9	35.9	—
指導活動がマンネリズムに おちいる	自信型	9.2	28.3	48.0	12.9	0.6
	保身型	17.2	37.7	35.8	8.6	0.7
	奔放型	13.2	45.1	33.3	7.6	0.7
	割切型	22.1	42.1	29.0	6.2	0.7
学潮によって排他的な関係 があつておもしろくない	自信型	1.2	4.6	18.5	74.6	1.2
	保身型	3.3	6.6	19.2	68.9	2.0
	奔放型	2.8	3.5	16.7	75.0	2.1
	割切型	1.4	2.1	20.0	76.5	2.1
自分の質が子どもに理解して もらえないのが悔しい	自信型	1.7	11.6	43.4	42.2	1.2
	保身型	8.6	13.9	49.7	27.2	0.7
	奔放型	2.8	15.3	50.0	31.3	0.7
	割切型	6.9	21.4	49.0	21.4	1.4
よその学校の先生の方がよいと いう生徒がいた	自信型	0.6	2.3	27.7	65.9	3.5
	保身型	0.7	4.6	39.1	49.0	6.6
	奔放型	1.4	3.5	27.8	59.0	8.3
	割切型	—	3.4	37.9	49.7	9.0
研究授業をやっても、お互いに 自由に発言しないのでつまらない	自信型	4.0	16.8	39.3	38.2	1.7
	保身型	9.9	17.2	31.8	36.4	4.6
	奔放型	12.5	14.6	29.9	38.2	4.9
	割切型	9.0	26.9	30.3	29.7	4.1
父兄に叱責されることに気がつか れればならないため、思ったことが できない	自信型	1.7	3.5	25.4	69.4	—
	保身型	4.6	10.0	37.7	45.7	1.3
	奔放型	4.2	7.6	31.3	54.9	2.1
	割切型	6.2	14.5	42.1	35.9	1.4
子どもが授業のペースにのって ないので、1対1がいい	自信型	1.2	13.9	46.8	35.8	2.3
	保身型	6.0	17.2	50.3	25.2	1.3
	奔放型	3.5	20.1	54.2	21.5	0.7
	割切型	7.6	27.0	45.5	15.2	4.1
世間の人に教師の苦勞がわか つてもらえなくて、つまらない	自信型	6.4	14.5	39.9	38.7	0.6
	保身型	11.3	20.5	35.1	31.1	2.0
	奔放型	5.6	14.6	36.1	41.0	2.8
	割切型	11.7	23.4	35.9	28.3	0.7